

広東語の事象キャンセル構文

西田 文信

0. 広東語について

広東語は中華人民共和国広州市及び香港特別行政区の両都市の口語を標準とする漢語の一方言である。一方言と言っても、世界の他の地域では母語話者及び使用地域からすると一国家の国語に相当する規模を有する。広東語は中華人民共和国広州市・広西チワン族自治区や香港をはじめ、シンガポールなど東南アジアにおいて実用的なコミュニケーションの手段として、即ち広域共通語(lingua franca)として社会・文化・経済などの各方面で重要な機能を担っている¹。

言語類型としては、単音節声調言語、孤立語タイプであり、基本構成要素順序はSVO、名詞修飾はAN型であるが中には語彙化された形式にはNA型も多く見られる²。

1. 本稿の目的

本稿で扱う事象キャンセル構文は日本語の研究において多く論じられてきている。池上(1981: 266)では(1)のような表現は可能であるが(2)が許容されないのは、動詞が意図された結果の達成を含意しないことによるものであると指摘した。

- (1) 燃ヤシタケド燃エナカッタ
- (2) * I burned it, but it didn't burn.

日本語動詞「燃やす」は過去形の形式をとっているにもかかわらず、何らかの使役動作により引き起こされた「燃える」という結果の実現を含意していない。このように動詞の意味に含まれる結果の実現が含意されない現象を事象キャンセル構文と呼ぶ³。広東語においてもこの現象は確認される。本稿では広東語の動詞による事象キャンセルの可否及びそれに影響する要因を考察し、そこからみられる広東語動詞の性質について明らかにすることを目的とする。

2. 本稿の目標

本稿では、「事象キャンセル調査票（終点への到達が含意されるか否かについての調査票）」に基づき、広東語において動詞述語 A の意味構造に何らかの終点が含まれその終点を表す動詞述語 B があるとき「A した。しかし、B しなかった」と言うことが可能であるか、あるいは B という述語がない場合であっても終点への到達を何らかの方法で否定することが可能であるか、という二点に留意して行った初歩的調査の結果を報告する⁴。

3. 容認度調査の結果

先ず対象物の物理的変化が否定され得るかについてみてみよう。

(3) 殺咗 X。但係 (X) 冇死。

「X さんを殺した。しかし、(X さんは) 死ななかった。」

日本語訳文が容認不可能であるのに対し同様の広東語表現である (3) は容認される⁵。つまり動詞「殺」自体は行為の結果実現を含意しない。また (4) のように補語「死」を後続させると非文となるが、(5) および (6) のように「嘗試 (～しようとする)」と共にすれば容認可能となる。

(4) *殺死咗 X。但係 X 冇死。

(5) 嘗試殺 X。但係冇殺死佢。

(6) 嘗試殺 X。但係殺佢唔死。

これに対して (7) のような文は非文となる。

(7) *整咗個椰子落來。但係佢冇跌落來。

「ココヤシの実を落とした。しかし、落ちなかった。」

これは高い所になっているココヤシの実を長い棒でつついて落とそうとしたが、落ちなかったという状況を想定したものだが、(8) のように perfective のアスペクト要素〈咗〉を削除する、乃至は (9) のように「嘗試 (～しようとする)」と共にすれば容認可能となる。以下 (11) ~ (12) もこれらの平行例となる。

(8) 整個椰子落來。但係佢冇跌落來。

(9) 嘗試用支長棍整個椰子落來，但係佢冇跌落來。

(10) *¹整開 / 切開¹ 咗個椰子。但係佢冇開。

「ココヤシの実を割った。しかし、割れなかった。」

これはヤシの実を鉋で割ろうとしたが、割れなかったという状況を想定したものである。

- (11) {整開 / 切開} 個椰子。但係佢冇開。
 (12) 嘗試用柴刀 {整開 / 切開} 個椰子，但係佢冇開。

- (13) *整 {壞 / 爛} 咗個窗。但係冇 {壞 / 爛} ⁶。

「窓を壊した。しかし、壊れなかった。」

これはガラス窓を棒で叩いて壊そうとしたが、壊れなかったという状況を想定したのだが、この場合も(14)のように **perfective** のアスペクト要素〈咗〉を削除する、乃至は(14)のように「嘗試 / 試圖 (～しようとする)」と共起すれば容認可能となる。

- (14) 用棍敲玻璃窗 {嘗試 / 試圖} 整 {壞 / 爛} 佢，但係佢冇 {壞 / 爛}。

- (15) *切咗條繩。但係佢冇斷。

「糸を切った。しかし、切れなかった。」

これは糸を刃物（あるいは手、歯など）で切ろうとしたが、切れなかったという状況を想定したものである⁷。補語「斷」と共起させると更に容認度が下がる。

- (16) *切斷咗條繩。但係佢冇斷。

(17) のように「幾下」と共起すると、「何度も切ってみたが、切れなかった」とのニュアンスが生まれ文法的な文となる。最も文法性の高い文は(18)のように「嘗試 (～しようとする)」と共起した場合である。(19)～(21)もこれらの平行例となる。

- (17) 切咗條繩幾下，但係佢都有斷。
 (18) 嘗試用刀去切斷條繩，但係佢冇斷。

- (19) *折咗條樹枝。但係佢冇斷。
 「枝を折った。しかし、折れなかった。」

- (20) *折斷咗條樹枝。但係佢冇斷。
 (21) 折咗幾下條樹枝。但係佢都有斷。

- (22) *打開咗個窗。但係佢冇開。
 「窓をあけた。しかし、開かなかった。」

(23) *開咗个窗。但係佢冇開。

「開く」に相当する動作は自動詞「開」、他動詞は「打開」であるが、(22)は補語の用法となっているのに対し(23)では主動詞となっているが、いずれも非文となる。

(24) *貼咗張紙。但係冇貼上去。×

「紙を貼った。しかし、くっつかなかった。」

(25) *貼咗張紙好幾下。但係都有貼上去。

貼り付けるという動作は比較的容易に遂行できるどうさせるから(25)も容認度は非常に低くなる。巨大なポスターのような大きなものを張り付けるという意味である(26)のような文であれば容認可能となる。

(26) 貼咗張紙好幾下。但係都有掛唔到上去。

(27)～(29)の例はすべて非文となる⁸。

(27) *鋸杯咗棵樹。但係佢冇杯。

「木を倒した。しかし、倒れなかった。」

(28) *煮滾咗啲水。但係佢冇滾。

「湯を沸かした。しかし、沸かなかった。」

(29) *攤開咗張席。但係佢冇攤開。

「ござを広げた。しかし、広がらなかった。」

(30) *燒咗啲樹枝。但係佢冇著。

「木の枝を燃やした。しかし、燃えなかった。」

これは木の枝を焚き木にしようとしたが、湿っていて燃えなかったという状況を想定したものが、動詞「燒」は火がついて燃えるという局面まで含意するため非文となる。なお(31)のように補語「著」と共起すると更に容認度は下がる。

(31) *燒著咗啲樹枝。但係佢冇著。

(32) 煮咗啲芋頭。但係佢冇煮熟。

「山芋を煮た。しかし、煮えなかった。」

これは芋を煮ようとしたが、火力が弱く、煮えなかったという状況を想定したものだが、動詞「煮」は一部でも煮えるという行為の結果を含意しないため(32)は文法的な文となる。(33)も同様の例である。(34)は容認度の低くなる例であるが、初めて料理をした人の発話であれば容認度は高くなる。

(33) 我煮咗飯，但係响飯 {生米 / 冇熟}。

(34) ² 煮熟咗响芋頭。但係佢冇煮熟。

(35) *晒乾咗响魚。但係佢冇乾。

「魚を干した。しかし、乾かなかった。」

これは干し魚を作ろうとしたが、乾ききらなかったという状況を想定したもののだが、補語「乾」を削除した例も非文となる。

(36) *晒乾咗响魚。但係佢冇乾。

(37) 雪咗個西瓜。但係佢冇變凍。

「スイカを冷やした。しかし、冷えなかった。」

これは冷蔵庫が壊れた場合を想定したものであるが、(37) は完全に文法的な文である⁹。

次に対象物の知覚が否定され得るかに着目して例文をみていく。

(38) 睇咗。但係睇唔到。

「見た。しかし、見えなかった。」

(38) は文法的な文である。例えば、(39) のような AB の対話において可能である。

(39) A: 你睇下老师係黑板上寫咗响乜。

「先生が黑板に何を書いたか見てごらん。」

B: 我睇咗。但係 C 遮住咗我，我睇唔到。

「見たよ。でも C さんが邪魔して見えなかったんだよ。」

(40) 睇咗。但係冇睇到。

(40) も文法的である。例えば、(41) のような AB の対話において可能である。

(41) A: 你睇下 C 有冇來?

「C さん来たかどうかみて。」

B: 我睇咗啦，但係 {冇睇 / 冇見} 到佢。

「みたよ。でも見当たらないな。」

(42) *聽咗。但係聽唔到¹⁰。

「聞いた。しかし、聞こえなかった。」

これに対して、(43)、(44) のような嗅覚に関する例は文法的となる。

(43) 聞咗個魚醬。但係聞唔到有味。

「魚醬のにおいをかいだ。しかし、においがしなかった。」

(43) 聞咗下個魚醬。但係聞唔到有味。

次に対象物の移動が否定され得るかに着目して例をみていく。

(44) *掉咗個石仔。但係冇掉出去。

「小石を投げた。しかし、投げられなかった。」

これは小石を投げようとしたが、手にくっついて、手から離れなかったという状況を想定したものであるが、動詞「掉」自体が手から離れる意味をもっているので、(44)は非文となる。

(45) *將個西瓜放入咗個竹籃。但係放唔入去。

「スイカを籠に入れた。しかし、入らなかった。」

スイカを籠に入れようとしたが、大きくて入らなかったという状況であるが、(46)のように perfective のアスペクト要素〈咗〉を削除すると容認度は上昇する。

(46) *將個西瓜放入個竹籃。但係放唔入去。

(47) *搵咗個芋頭。但係冇搵出來。

「山芋を抜いた。しかし、抜けなかった。」

動詞「搵」完全に引き抜けたという含意があるため(47)は非文となる。(48)のように「幾下」と共起すると文法的になる。

(48) 搵咗幾下個芋頭。但係冇搵出來¹¹。

(49) *推咗块岩石。但係冇推郁。

「岩を動かした。しかし、動かなかった。」

これは大きな岩を動かそうとしたが、重すぎて動かなかったという状況を想定したもののだが、「動かす」に相当する広東語動詞は存在せず、「推」は「押す」の意味である。(50)のように「幾下」と共起すると文法的になる。

(50) 推咗块岩石幾下。但係冇推郁。

(51) [?]放咗只雀。但係冇放出去。

「鳥を放した。しかし、放せなかった。」

これは鳥を放そうとしたが、鳥かごから出て行かなかったという状況を想定したものであるが、

「放」の意味領域によっては (52) 及び (53) のように文法的な文となる。

(52) 放咗只雀。但係冇放成功。

(53) 放咗只雀。但係只雀冇走。

(54) *將個白放上咗個架度。但係冇放上去。

「白を載せた。しかし、載らなかった。」

これは白を棚に載せようとしたが、思ったより重くて載せられなかったという状況を想定したものであるが、動詞「放」にしかるべきところに置いたという含意があるため (54) は非文となる。

次に対象物との接触が否定され得るかに着目した例文をみていく。

(55) *敲咗 X。但係冇敲到。

「X さんを叩いた。しかし、叩けなかった。」

これは叩こうとしたが、手が届かなかったという状況を想定したものであるが、動詞「敲」に既に相手に接触した含意があるため (55) は非文となる。(56) も同様の理由から非文となる。(57) のように「幾下」と共起すると文法的になる。

(56) *敲咗下 X。但係冇敲到。

(57) 嘗試敲 X。但係冇敲到。

(58) *踢咗 X。但係冇踢到。

「X さんを蹴った。しかし、蹴れなかった。」

これは蹴ろうとしたが、足が届かなかったという状況を想定したものであるが、動詞「踢」に既に相手に接触した含意があるため (58) は非文となる。(59) も同様の理由から非文となる。(60) のように「嘗試」と共起すると文法的になる。

(59) *踢咗下 X。但係冇踢到。

(60) 嘗試踢 X。但係冇踢到。

(61) *抓住咗個杯。但係冇抓住。×

「コップをつかんだ。しかし、つかめなかった。」

これはコップに一瞬触れたが、熱くてしっかりと持つことができなかったという状況を想定したものであるが、動詞「抓」に既に対象物に接触した含意があるため (61) は非文となる。

以下では目的地への到達が否定され得るかに着目した例文をみていく。

- (62) *去咗東京。但係冇到。

「東京に行った。しかし、着かなかった。」

動詞「去」に既に目的地に到着した含意があるため (62) は非文となる。

- (63) *來咗呢度。但係冇到。

「ここに来た。しかし、着かなかった。」

これは昨日もここに来ようとしたのだが、道が分からなくてたどり着かなかったという状況を想定したものであるが、動詞「来」に既に目的地に到着した含意があるため (62) は非文となる。

- (64) *翻咗屋企。但係冇翻到。

「家に帰った。しかし、着かなかった。」

動詞「翻」に既に目的地に到着した含意があるため (62) は非文となる。

- (65) *上咗二樓。但係冇上到。

「二階に上がった。しかし、着かなかった。」

これは家の二階に上がろうとしたが、膝が痛くて階段を上がれなかったという状況を想定したが、動詞「上」に既に目的地に到着した含意があるため (65) は非文となる。

次に作成物の出現が否定され得るかに着目した例をみていく。

- (66) *整咗個公仔。但係冇整出來。

「人形を作った。しかし、出来なかった。」

これは人形を作ろうとしたが、技術がなかったので結局は出来上がらなかったという状況を想定したものであるが、動詞「整」に当初の目的を（部分的にでも）完遂したという含意があるため (66) は母語話者により容認度に差が出るものである。

- (67) *起咗間屋。但係冇起成。

「家を建てた。しかし、出来なかった。」

これは家を作ろうとしたが、途中で風雨で壊れ、出来なかったという状況を想定したものであるが、動詞「起」に当初の目的を（部分的にでも）完遂したという含意があるため (67) は母語話者により容認度に差が出るものである。当初の予想のように上手くできなかった、という意味であれば文法的となる。

(68) 挖咗個窿。但係冇挖成。

「穴を掘った。しかし、穴ができなかった。」

これは穴を掘ろうとしたが、地面が固くて穴が出来なかったという状況を想定したものであるが、動詞「挖」は香港出身話者には行為の遂行を含意しないものであるため容認されるが、広州出身話者にとっては必ずしもそうでないため容認度が下がるものである。

以下では対象物の獲得が否定され得るかに着目して例をみていく。

(69) *買咗本書。但係 {冇買到 / 買唔到 / 冇買成}。

「その本を買った。しかし、買えなかった。」

これは本を買おうとして本屋に行ったが、目的の本がなくて、入手することができなかったという状況を想定したものであるが、例えばオンラインショッピングで注文を確定したが商品が到着していないという読みであれば文末に「買唔成」を用いれば文法的となる。

(70) *偷咗錢。但係冇偷成。

「金を盗んだ。しかし、盗めなかった。」

これは金を盗もうとして店に入ったが、警備員に見つかって入手できなかったという状況を想定したものであるが、この場合は非文となる。上述の例のように例えばオンラインで盗もうとしたが最後の段階まで到達できなかったという読みであれば文法的となる。

次に発声が否定され得るかについてみていく。

(71) *講咗下野。但係出唔到聲。

「話した。しかし、声が出なかった。」

(72) *唱咗下歌。但係出唔到聲。

「歌った。しかし、声が出なかった。」

(71) 及び (72) はいずれも実際に発生したことを含意しているので、共に非文となる。

下は飲食物の摂取が否定され得るかに関する例文である。

(73) *食咗條魚。但係食唔落。

「魚を食べた。しかし、食べられなかった。」

これは魚を一旦は口に入れたが、まずくて飲み込めなかったという状況を想定したものであるが、動詞「食」は食べ物が胃に到達することを含意するので、(73) は非文となる。

(74) *飲咗酒。但係飲唔落。

「酒を飲んだ。しかし、飲めなかった。」

「酒を一旦は口に入れたが、まずくて飲み込めなかったという状況を想定したものであるが、「食」同様、動詞「飲」は飲み物が胃に到達することを含意するので、(74)は非文となる。

次に自己完結的動作の最終状態が否定され得るかの観点からの例文をみていく。

(75) 企咗起身。但系企唔直。

「立った。しかし、立てなかった。」

これは椅子から立ち上がろうとして途中まで腰を上げたが、直立の姿勢にはならなかったという状況を想定したものであるが、動詞「企」は直立状態になるという含意はないため、(75)は文法的な文となる。

(76) ²坐低咗。但系坐唔住。

「座った。しかし、座れなかった。」

これは椅子に座ろうとして脚を曲げたが、脚が痛くて、尻を椅子につけた状態にならなかったという状況を想定したものであるが、母語話者によっては「坐」は尻を椅子に着けた状態になるまで含むというものと含まないという意見が分かれ、容認度に差が出た。

(77) 訓咗。但係訓唔著。

「眠った。しかし、眠れなかった。」

これは眠ろうとして横になったが、眠りに入ることができなかったという状況を想定したものであるが、動詞「訓」は香港出身話者には行為の遂行を含意しないものであるため容認されるが、広州出身話者にとっては必ずしもそうでないため容認度が下がるものである。(78)のように補語「低」と共起すると文法的になる。

(78) 訓低咗。但係訓唔著。

以下は自己完結的動作そのものの開始が否定され得るかに着目した例である。

(79) *企咗起身。但係企唔起身。

「立った。しかし、立てなかった。」

これは立ち上がろうとして力を入れたが、椅子から尻をまったく離すことができなかったという状況を想定したものである¹²。動詞「企」は直立状態になるという含意はないが「起身（直立状態

に)」という語を含むため(79)は文法的な文となる。

(80) *坐低咗。但係坐唔低。

「座った。しかし、座れなかった。」

これは座ろうとして力を入れたが、脚が痛くてまったく動作を開始することができなかったという状況を想定したものである。動詞「坐」は座るという動作を遂行するという含意はないが「低(直)」という補語を含むため(80)は文法的な文となる。

(81) ²行咗。但係行唔出去。

「歩いた。しかし、歩けなかった。」

これは歩こうとして力を入れたが、脚が痛くて一歩も踏み出すことができなかったという状況を想定したものである。「一歩も歩けなかった」の意味にとることは不可能であるが、「ちょっと家から出た」の意味にとることは可能である。

(82) *跑咗。但係跑唔出去。

「走った。しかし、走れなかった。」

これは走ろうとして力を入れたが、脚が痛くて一歩も踏み出すことができなかったという状況を想定したものであるが、「跑咗。但係跑唔到出去。」とすれば容認度は上昇する。

(83) 笑咗。但係笑唔出。

「笑った。しかし、笑えなかった。」

これは笑った顔を作ろうとしたが、恐怖心のため、笑った顔を作ることができなかったという状況を想定したものであるが、動詞「笑」は香港出身話者には行為の遂行を含意しないものであるため容認されるが、広州出身話者にとっては必ずしもそうでないため容認度が下がるものである。

(86) 喊咗。但係喊唔出。

「泣いた。しかし、泣けなかった。」

これは演技のため、泣こうとしたが、演技力がないので涙を流すことができなかったという状況を想定したものであるが、動詞「喊」は香港出身話者には行為の遂行を含意しないものであるため容認されるが、広州出身話者にとっては必ずしもそうでないため容認度が下がるものである。

次に被使役者の動作や感情の実現が否定され得るかの観点からみていく。

広東語では被使役者の動作の実現が否定されうるため(87)～(89)は文法的となる。

- (87) 叫咗 X 跳舞。但係 (X) 冇跳。

「X さんを踊らせた。しかし、(X さんは) 踊らなかった。」

- (88) 叫咗 X 去。但係 (X) 冇去。

「X さんを行かせた。しかし、(X さんは) 行かなかった。」

- (89) 叫咗 X 食芒果。但係 (X) 冇食。

「X さんにマンゴーを食べさせた。しかし、(X さんは) 食べなかった。」

- (90) *將芒果賣咗俾 X。但係 (X) 冇買。

「X さんにマンゴーを売った。しかし、(X さんは) 買わなかった。」

動詞「賣」は相手を買ったという含意があるので、(90) では行為の矛盾が生じるので非文となる。

- (91) 將芒果俾咗 X 睇。但係 (X) 冇睇。

「X さんにマンゴーを見せた。しかし、(X さんは) 見なかった。」

- (92) 將芒果俾咗 X。但係 (X) 冇要。

「X さんにマンゴーを与えた。しかし、(X さんは) 受け取らなかった。」

上記二例は、それぞれ直接的に見なかった、受け取らなかったという読みであれば容認可能となる。

- (93) *將本書借咗俾 X。但係 (X) 冇要。

「X さんに本を貸した。しかし、(X さんは) 受け取らなかった。」

動詞「借」は相手が借りたという含意があるので、(93) では行為の矛盾が生じるので非文となる。

- (94) 打咗電話俾 X。但係 (X) 冇接電話。

「X さんに電話した。しかし、(X さんは) 電話に出なかった。」

動詞「打」という動作は最終的な動作の実現の否定が可能であるので、(94) は文法的である。

- (95) 吓咗 X 一跳。但係 (X) 冇吓親。

「X さんを驚かせた。しかし、(X さんは) 驚かなかった。」

動詞「吓」という動作は最終的な動作の実現の否定が可能であるので、(95) は文法的である。

- (96) *激嫩咗 X。但係 (X) 冇嫩。

「X さんを怒らせた。しかし、(X さんは) 怒らなかった。」

これは X さんを悪者にするため、X さんを怒らせようとしたが、怒らなかったという状況を想定したものであるが、動詞「激嫩」に相手が怒るという含意があるため、(96) は非文となる。

(97) *説服咗 X。但係 (X) 冇答應 (冇同意)。

「X さんを説得した。しかし、(X さんは) 引き受けなかった。」

困難な仕事を X さんに任せようとしたが、引き受けてくれなかったという状況を想定したものであるが、動詞「説服」は説得して相手が行為を遂行したという含意がある。この文では前後で矛盾が生じるため非文となる。

次に動詞連続について「簡単に」みていく。「V1 V2 した。しかし、V2 しなかった」という形式が可能か否かをみていく。

(98) [?] 去咗買魚。但係冇買。

「魚を〈行く〉(V1) 〈買う〉(V2) した。しかし、買わなかった。」

動詞「買」は香港出身話者には行為の遂行を含意しないものであるため容認されるが、広州出身話者にとっては必ずしもそうでないため容認度が下がるものである。また perfective のアスペクト〈咗〉があるため更に容認度を下げる要因となっている。

(99) [?] 煮咗魚食。但係冇食。

魚を〈煮る〉(V1) 〈食べる〉(V2) した。しかし、食べなかった。

この文では香港出身話者には「魚を食べられる状態になるまで完全に調理を施すした」という読みが可能であるため容認されるが、広州出身話者にとっては必ずしもそうでないため容認度が下がるものである。

最後に受身形についてみる。

(100) X 俾人殺咗。但係冇死。

「X さんは殺された。しかし、死ななかった。」

(3) で触れたように、動詞「殺」自体は行為の結果実現を含意しない。よって日本語訳文が容認不可能であるのに対し同様の広東語表現である (100) は容認される。

4. 小結及び課題

事象キャンセルが可能であれば、当該言語において、意味論的に動詞の限界性 (telicity) が指定されていないと考えるのが妥当である¹³。今回は用例を列挙するにとどめたが、今後は事象キャンセルが成立する条件において如何なる結果補語との共起制限が存在するか、如何なるタイプの助動詞が出現しやすいか、従属節を用いた場合の統語的振る舞いは如何なるものか、目的語の定性、語彙的アスペクトによる事象キャンセルを容認する動詞、等の観点から更に深く検討していく。

謝辞

本稿作成に当たっては広東語母語話者である調査協力者の馮超鴻氏、陳國平氏、陳劍文氏にご協力を賜った。ここに記して謝意を申し上げる。事象キャンセル構文に関する調査票をご恵贈下さった慶應義塾大学言語文化研究所加藤昌彦教授には心より御礼申し上げます。草稿の段階では、香港中文大學中文系郭必之副教授より貴重なご助言を忝くした。ここに記して満腔の謝意を表する次第である。

付記

本研究の一部は2021年度特定課題研究助成費（課題番号：2021C-101）によって行われた。

[注]

- 1 詳しく言えば、中国大陸部に4,600万、香港に530万、シンガポールに31万、マカオに50万、マレーシアに75万、ベトナムに50万、インドネシアに18万、サンフランシスコに18万、オランダに7万、タイに3万、ニュージーランドに2万、フィリピン・コスタリカ・ブルネイ・ナウル・カナダ等に数千人の話者を有する一大言語である。中国大陸部では広東省・広西省南部で行なわれている。詳細は辻（1989a, 1989b）及び西田（2011）を参照。
- 2 この点に関しては橋本（1978：63-71）を参照。
- 3 上述の池上（1981）以外にも、宮島（1985）、Ikegami（1985）、影山（1996）、アラム佐々木（2001）、Tsujiura（2003）、崔（2011）などでも論じられてきている。タイ語の状況については坂本（1985）を参照。
- 4 慶應義塾大学言語文化研究所加藤昌彦教授作成によるもの。今回は2019年3月1日版に基づいて行った調査結果を報告する。
- 5 当初広州市出身の母語話者は（3）は非文であると回答したが、文脈を設定するなどしたところ容認可能と判断した。
- 6 窓枠を破壊するなら「整壊」、窓ガラスを破壊するなら「整爛」が用いられる。
- 7 なお、広東語で切るに相当する動詞は「切斷」である。
- 8 ただし（28）から perfective のアスペクト〈ㄗ〉を削除した「煮滾响水。但係佢冇滾。」とすると容認度は大幅に上昇する。
- 9 「雪凍」という語もあるがこれは「冷凍」するの意。
- 10 「冇睇到」は理解できないの意味にもとれる。
- 11 「搵咗个芋頭幾下」としても文法的である。
- 12 （75）との差異に注意されたい。
- 13 ただし、事象キャンセルが可能でも、日本語のように限界性が指定されていると考えられる言語も存在するため、事象キャンセルによってどのような状況が表されるかを多くの用例に当たり詳細に調べることが必要となる。

[参考文献]

- アラム佐々木幸子. 2001. 「燃やしたけれど燃えなかった」のはなぜ?—「弱い達成動詞」と「強い達成動詞」南雅彦・アラム佐々木幸子（編）『言語学と日本語教育Ⅱ』くろしお出版. pp.57-74.
- 張洪年. 2007. 《香港粵語語法的研究 増訂版》香港：中文大學出版社.
- 鄧思穎. 2015. 《粵語語法講義》香港：商務印書館.
- 高華年. 1984. 《廣州方言研究》香港：商務印書館.

- 橋本萬太郎. 1978. 『言語類型地理論』弘文堂.
- 池上嘉彦. 1981. 『「する」と「なる」の言語学』大修館書店.
- Ikegami, Yoshihiko. 1985. 'Activity'- 'accomplishment'- 'achievement' — A language that can't say 'I burned it, but it didn't burn' and one that can. In Adam Makkai and Alan K. Melby (eds.) *Linguistics and Philology. Essays in Honor of Rulon S. Wells*. Pp. 265–304. Amsterdam: John Benjamins.
- 影山太郎. 1996. 『動詞意味論—言語と認知の接点—』くろしお出版.
- Haspelmath, Martin. 1993. More on the typology of inchoative/causative verb alternations. In Bernard Comrie and Maria Polinsky (eds.) *Causatives and Transitivity*, pp.87–120. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Haspelmath, Martin. 2016. Universals of causative and anticausative verb formation and the spontaneity scale. *Lingua Posnaniensis* 58.2: 33–63.
- 加藤昌彦. 2015. 「ビルマ語の事象キャンセル」*EX ORIENTE* 22: 1–36.
- Kato, Atsuhiko. 2018. “Entailed and intended results in Japanese and Burmese accomplishment verbs.” In Prashant Pardeshi and Taro Kageyama (eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*, pp. 173–192. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.
- 李新魁, 黄家教, 施其生, 麦耘, 陈定方. 1995. 《广州方言研究》 广州: 广东人民出版社.
- Matthews, Stephen. and Verginia Yip. 1994. *Cantonese: A Comprehensive Grammar*. London: Routledge.
- 宮島達夫. 1985. 「「ドアをあけたが、あかなかった」—動詞の意味における〈結果性〉」『計量国語学』14.8: 335–353.
- 西田文信. 2011. 「香港粵語の音声・音韻について（その1）」『秋田大学教養基礎教育研究年報』13: 13–24.
- 坂本比奈子. 1985. 「タイ語の動詞の下位分類について」『アジア・アフリカ言語文化研究』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 30: 177–192
- 崔玉花. 2011. 「日本語と中国語の結果キャンセル構文について」『言語学論叢 オンライン版』筑波大学一般・応用言語学研究室. 4: 29–41.
- 辻伸久. 1989a. 「粵語」『言語学大辞典第1巻 世界言語編（上）あ〜こ』東京: 三省堂. pp. 940–943.
- 辻伸久. 1989b. 「広東語」『言語学大辞典第1巻 世界言語編（上）あ〜こ』東京: 三省堂. pp. 1333–1338.
- Tsujimura, Natsuko. 2003. Event cancellation and Telicity. In William McClure (ed.) *Japanese/Korean Linguistics*. 12: 388–399. Stanford: CSLI Publications.